

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
橋本 勉			
火3,4			
添付ファイル			

科目の概要	病態生理学Ⅰで教科書の前半、具体的には疾患の診断と治療の概要を学んだ後、栄養・代謝疾患、内分泌疾患、消化器疾患、循環器系疾患、生活習慣病について学修しました。 病態生理学Ⅱで教科書の後半、腎・尿路系疾患、神経・精神系疾患、呼吸器系疾患、血液・造血管系疾患、循環器系疾患、運動器（骨格系）疾患、皮膚系疾患、免疫・アレルギー系疾患、婦人科疾患、その他について学修します。
授業の内容	<p>第1回 第8章 腎・尿路系疾患（1） 腎尿路の解剖生理の復習、糸球体濾過について（配布プリント）</p> <p>第2回 第8章 腎・尿路系疾患（2） 腎炎、腎疾患について（教科書 pp. 155～163）</p> <p>第3回 第8章 腎・尿路系疾患（3） 腎不全、その他の尿路系疾患について（pp. 163～180）</p> <p>第4回 第9章 神経・精神系疾患 摂食障害、認知症、その他の神経・精神系疾患について（pp. 181～191）</p> <p>第5回 第10章 呼吸器系疾患（1） 肺炎、慢性閉塞性肺疾患について（pp. 192～201）</p> <p>第6回 第10章 呼吸器系疾患（2） 喘息、その他の肺疾患、酸塩基平衡について（pp. 201～206）</p> <p>第7回 第11章 血液・造血管系疾患（1） 貧血について（pp. 207～215）</p> <p>第8回 第11章 血液・造血管系疾患（2） 造血管腫瘍性疾患、出血傾向をきたす疾患について（pp. 215～222）</p> <p>第9回 第12章 運動器（骨格系）疾患（1） 骨粗鬆症、骨軟化症について（pp. 223～230）</p> <p>第10回 第12章 運動器（骨格系）疾患（2） 変形性関節症、その他の運動器疾患について（pp. 230～234）</p> <p>第11回 第13章 皮膚系疾患 熱傷と褥瘡について（pp. 235～242）</p> <p>第12回 第14章 免疫・アレルギー系疾患（1） 免疫について（配布プリント）</p> <p>第13回 第14章 免疫・アレルギー系疾患（2） アレルギー疾患、膠原病について（pp. 243～252）</p> <p>第14回 第15章 婦人科疾患 婦人科の腫瘍性疾患、子宮内膜症、更年期障害、妊婦に特有の疾患について（pp. 253～262）</p> <p>第15回 第16章 加齢・疾患に伴う変化 老化、炎症、変性、壊死、腫瘍、個体の死、について（pp. 263～273）</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	主要疾患について、その成因、発症・進行に伴う生体の形態や機能の変化を説明できる。 各疾病の病態評価や診断・治療の基本的な考え方を説明できる。 各疾病と代謝・栄養とを関連づけることができる。
授業の方法	教科書に沿って、プロジェクターを使用し、講義形式で授業を進めます。 毎回小テストを行い理解度を確認します。
成績評価の方法	定期試験（80%）、小テスト・授業態度（10%）、課題（10%）により総合的に評価します。
教科書・テキスト	「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版」、田中 明、宮坂京子、藤岡由夫編、羊土社、2015 適宜、参考資料を印刷して配布します。
参考書	「臨床医学概論 第3版」、福井次矢・小林修平編著、建帛社、2012 「解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第3版」、志村二三夫、岡 純、山田和彦編、羊土社、2020 「臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版」、本田佳子、土江節子、曾根博仁編、羊土社、2016 「三訂 臨床栄養管理 [第3版]」、渡邊早苗、寺本房子、松崎政三編著、建帛社、2015 「わかりやすい病理学 改訂第6版」、岩田隆子監修、南江堂、2016

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	使用する教科書の該当する範囲を予習し、重要と思われる項目を整理して授業に臨んでください。授業後は、配布された資料等を含め、学んだ内容をよく復習してください。
履修上の留意事項	日頃から人体のしくみと働き、さまざまな疾患について関心を持ち、基本的な知識を身につけてください。
オフィスアワー	金曜日の昼休みは、原則、研究室（4号館 4-408号室）に待機しています。他の時間帯に訪問する場合には、なるべく事前連絡をしてください。
実務経験	放射線診断医として診療に従事（昭和54年～平成25年）
その他	授業中、積極的に発言・質問してください。私語は慎み、指示がなければ携帯端末等を使用しない。